

役目柄、私は政治には強い関心を持っております。

市民の安全な生活を守るためには経済界は常に政治、行政とは密接な関係を保ち、相互の理解協調は全く不可欠なものであります。

私は業界以外の内外情勢調査会等の勉強会にも参加して国内外の著名な大臣、政治家、行政官、記者、作家、論説者、ニュースキャスター等の多くのジャーナリストの方々と交流させていただき、そこで得た情報、先見性等をこのFAX通信を通して皆様へお伝えいたしております。

昨年春頃からジャーナリストの方達が一斉に自民党大敗説を唱え始めました。

私はせいぜい自民党が負けても僅差だと思っておりました。

そこで私はこの方達に「自民大敗後はどうなりますか？」と聞きますと、答えは「次の民主政権は早ければ9カ月まで、長くても1年です！」とジャーナリストの皆さんの答えは一致していました。

今になってみますと予想はまさに的中であります。

なぜそれ程までの中したのかはそれぞれ沢山の答えがあると思いますが「藤原正彦（国家の品格）」によれば「マスコミが第一権力者だから・・・」と私もそう思っています。

この選挙で2人の候補者と出会いました。一人は演説会場でのS候補でした。私が「市民の願いは事業や予算を削減したり、消費税値上げをお考えになる前に衆参両院730名は多すぎます。

まず、議員数を半分に減らし、報酬調査費も半減、或いは黒字になるまでボランティアとする様なまず政治家ご自身が律する姿勢が必要です」と申し上げますと「私達はそうした市民世論に迎合することは致しません」と答えたS候補は予想を裏切って落選されました。

それから数日後、きみつ駅前街頭演説されていた候補に握手を求められたので「小沢作戦は1か所20分位の演説で500メートル毎に短く移動して1日50回以上が義務ですから貴方はそれ以上努力され、房総の農水業、中小零細企業の声聞いてあげて下さい」と申しますと候補者は、「私はもっと短く200メートル毎にドブ板を歩いてやって参ります」と答えた彼女は予想をはるかに超え、大勝されました。

衆議院小選挙区制度は何度か繰り返してきましたが、選択結果が「黒か？白か？」で51%あれば100となり、49%の意見はゼロとなるこの方法では政治家は選挙に立ちすくんで、選挙に勝つことのみを優先し、長期展望、政治理念より、世論にすり寄った政策を選ぶことになり、いつか与野党の政策の違いはなくなり、自民、民主大連立をしてもおかしくありません。

それにしても参院250名、衆院480名の議員は多すぎます。

衆院300名、1選挙区白か黒1人だけは良く無いので、3名くらい選べば世論迎合しない人も選べる参院は100名くらいで政党に属さないで政治理念をしっかりと持った人で単なる人気投票にならないハードルを設けて、国の方向をしっかりと任せられる人を選ぶべきです。

今のままの民主主義国家は、国家の意思決定が遅れる為、超スピード経済についていけず、中国、ロシアの様なファッショ的な国家に立ち遅れてしまう結果が現実となっております。